

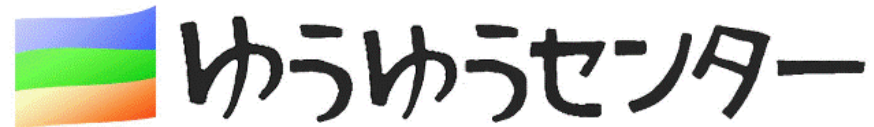
(資料4)

令和8年2月26日

福岡市発達障がい者支援地域協議会

ゆうゆうセンター 自立訓練 支援状況の報告

社会福祉法人 福岡市社会福祉事業団
福岡市立発達障がい者支援センター



ゆうゆうセンター 自立訓練部門の設置目的

■福岡市発達障がい者支援・障がい者就労支援センター（仮称）基本計画

- ①家庭で過ごしている期間が長い発達障がい者について、家庭以外の場面において重要なコミュニケーション等の能力向上を図る訓練を実施し、障がい福祉サービス事業所の定期的な利用や、就労支援につなぐ。
- ②障がいの特性により、支援を受ける場所が変わることや、支援者がかわることに大きなストレスを感じる発達障がい児・者に対しては、相談支援の担当者とも密に連携をとり、効果的な訓練が実施できるよう、訓練を担当する職員及び利用する諸室を確保し、自立訓練（生活訓練）事業所をセンター内で運営する。

■福岡市立発達障がい者支援センター 指定管理業務の仕様書

- (1)発達障がい者に対して、自己の特性の理解や、ライフスキルの向上を促し、成功体験を積み重ねることによって社会参加の促進等を図るために必要な訓練を実施すること。
- (2)発達障がい者の個々の特性に応じ、個別化した訓練内容を検討し実施すること。

ゆうゆうセンター 自立訓練 事業所概要

- ・ 開設日：令和5年8月1日
- ・ 場 所：福岡市舞鶴庁舎3階
- ・ 利用対象者：福岡市在住で発達障がいがある方
- ・ 内容（パンフレットより）

個々の発達障がい特性に配慮した、個別化した支援を行う自立訓練事業所です。
発達障がい者支援センターへの相談から訓練実施へワンストップで支援をつなぎます。

【個々人の興味関心や参加可能な範囲に合わせて柔軟な活動を行います。】

- ◇ 障がい特性に配慮し、個別的な物理的環境の設定を行います。
- ◇ 相談担当者と訓練担当者が密に連携し、特性に応じた個別化した支援をともに検討します。
- ◇ さまざまな体験を通して、その方なりの社会参加のありかたを一緒に考えていきます。
- ◇ まずは 福岡市立発達障がい者支援センター（ゆうゆうセンター）へご相談ください。

職員配置の状況

職種	人数
サービス管理責任者	1名
支援員	3名

相談支援部門との連携状況

■相談支援部門での面接・相談から自立訓練へのつなぎ

- ・ 相談者情報の「先行共有」、支援経過の「常時共有」
- ・ 「訓練担当者の顔が見える」、「訓練場所や内容が見える」導入の実施
- ・ 待機期間の「並走支援」 本人・家族のタイミングを重視した「共同支援」

■連携のための工夫

- ・ 相談及び訓練担当者間での早期カンファレンスの実施
- ・ 暫定プログラム（体験等）の設定や、利用手続き等のスケジュール共有
- ・ 役割分担等の明確化（関係機関を含む）

自立訓練 訓練等実施状況

令和6年度実績

在籍者	3名	男性3名 女性0名
延べ訓練実施件数	66件	月平均5.5件
本人以外への支援・連携	84件	家族63 相談支援機関17 医療療機関4

令和7年度実績（令和8年1月末まで）

在籍者	7名	男性5名 女性2名
延べ訓練実施件数	341件	月平均34.1件
本人以外への支援・連携	120件	家族76 相談支援機関40 医療療機関2 その他2

訓練利用に向けた支援の実施状況

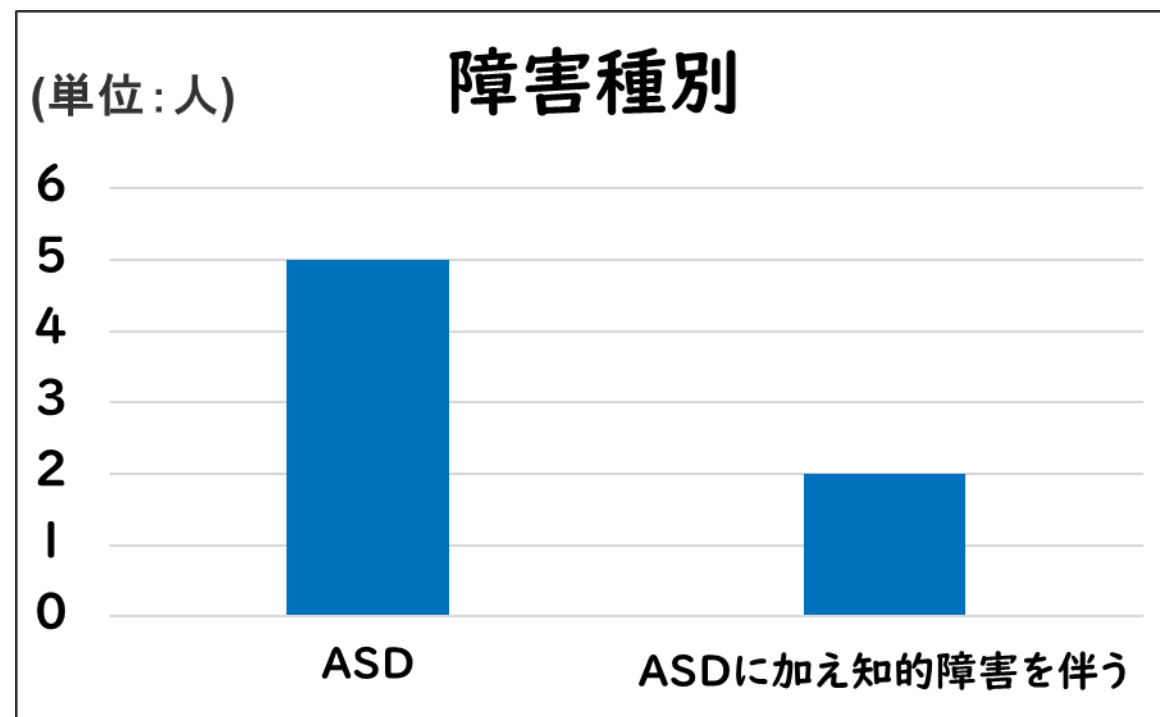
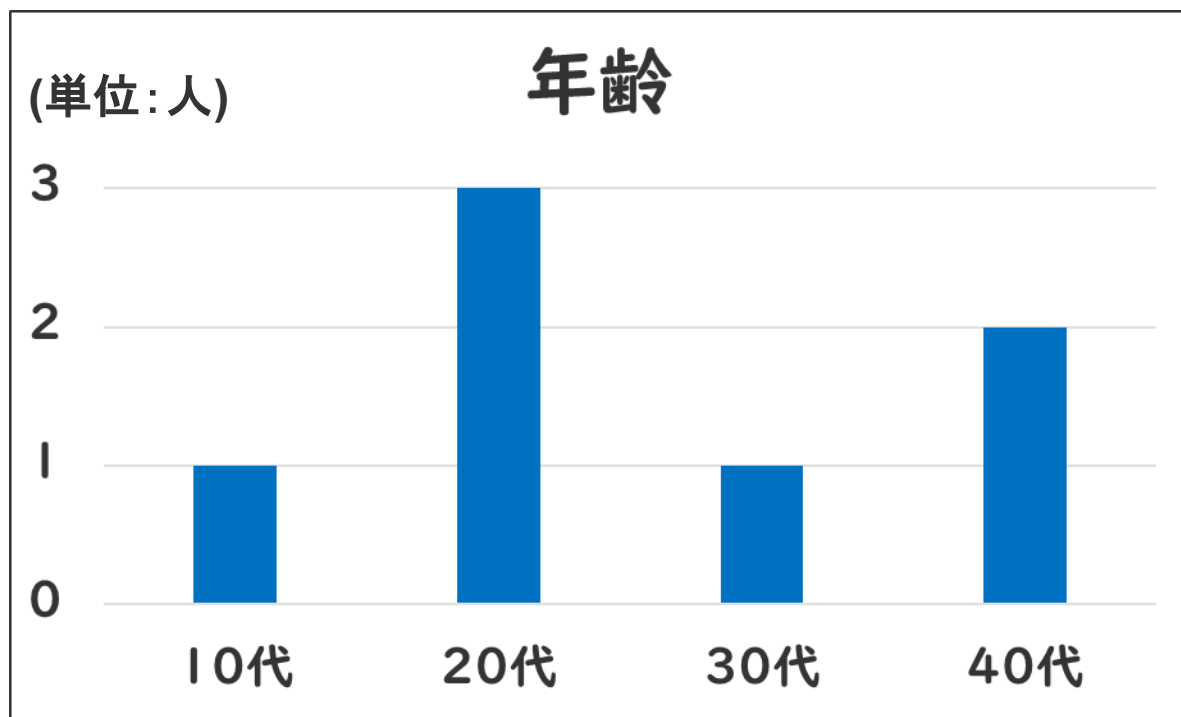
令和6年度実績

実対応人数	4名	
述べ対応件数	89件	相談対応5 体験利用68 その他16
本人以外への支援・連携	54件	家族32 相談支援機関18 医療機関2 その他2

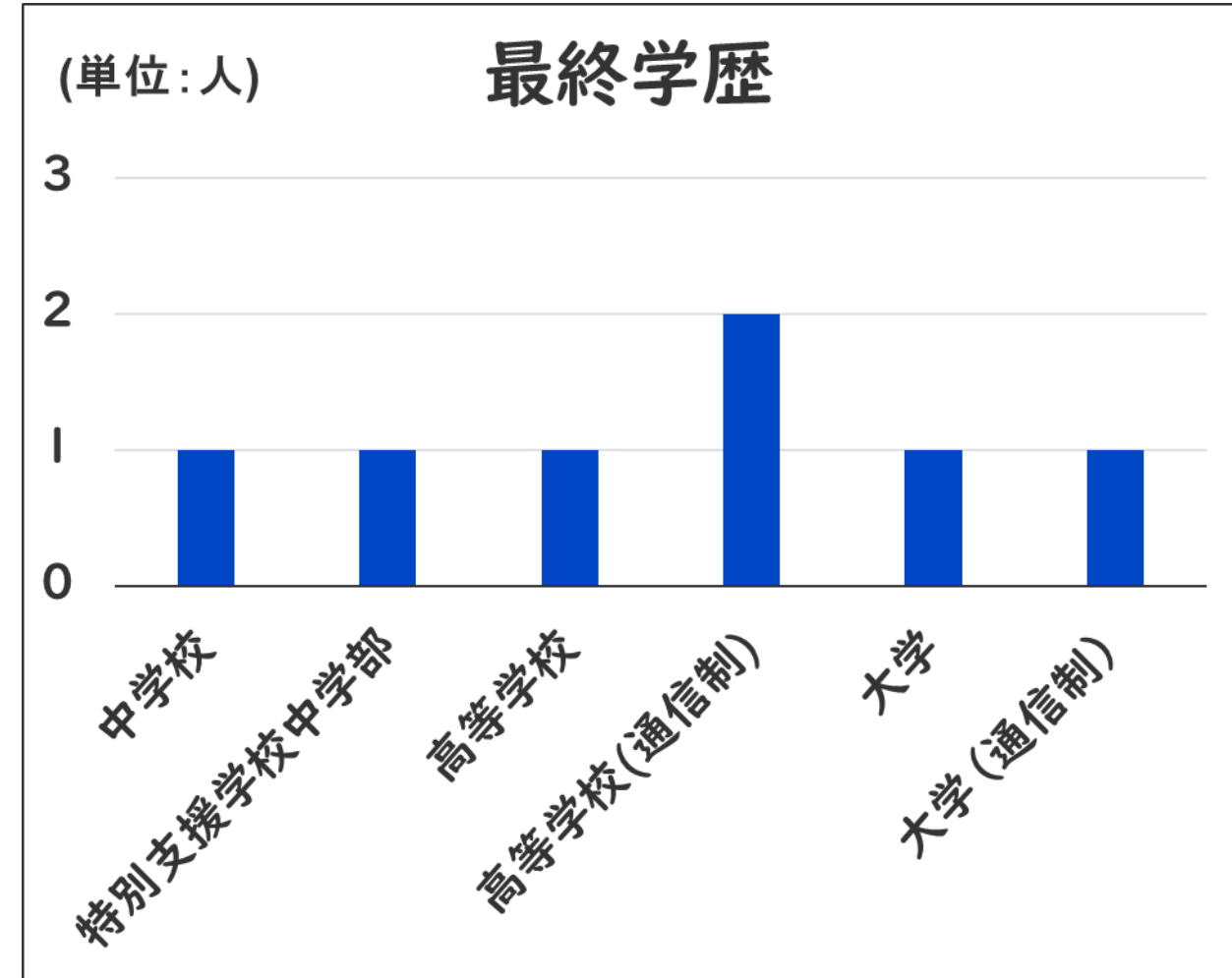
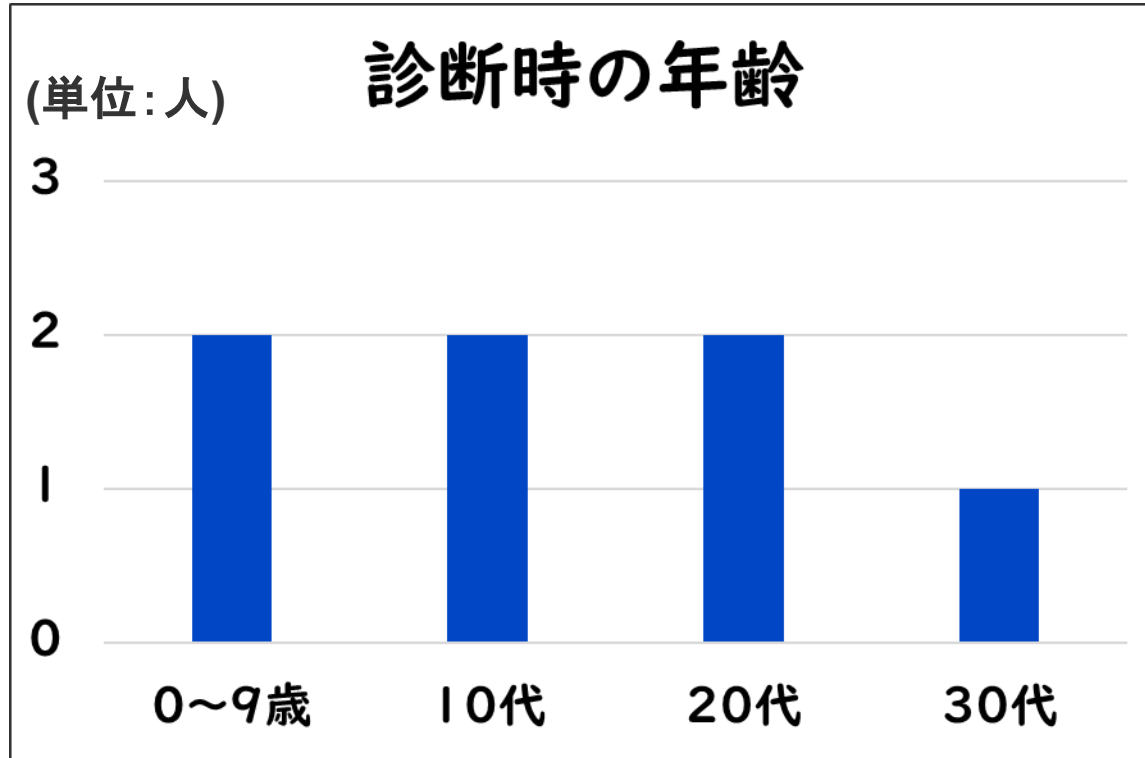
令和7年度実績（令和8年1月末）

実対応人数	5名	
述べ対応件数	34件	相談対応14 体験利用16 その他4
本人以外への支援・連携	38件	家族28 相談支援機関9 医療機関1

利用者7名の当センター相談開始時の状況①



利用者7名の当センター相談開始時の状況②



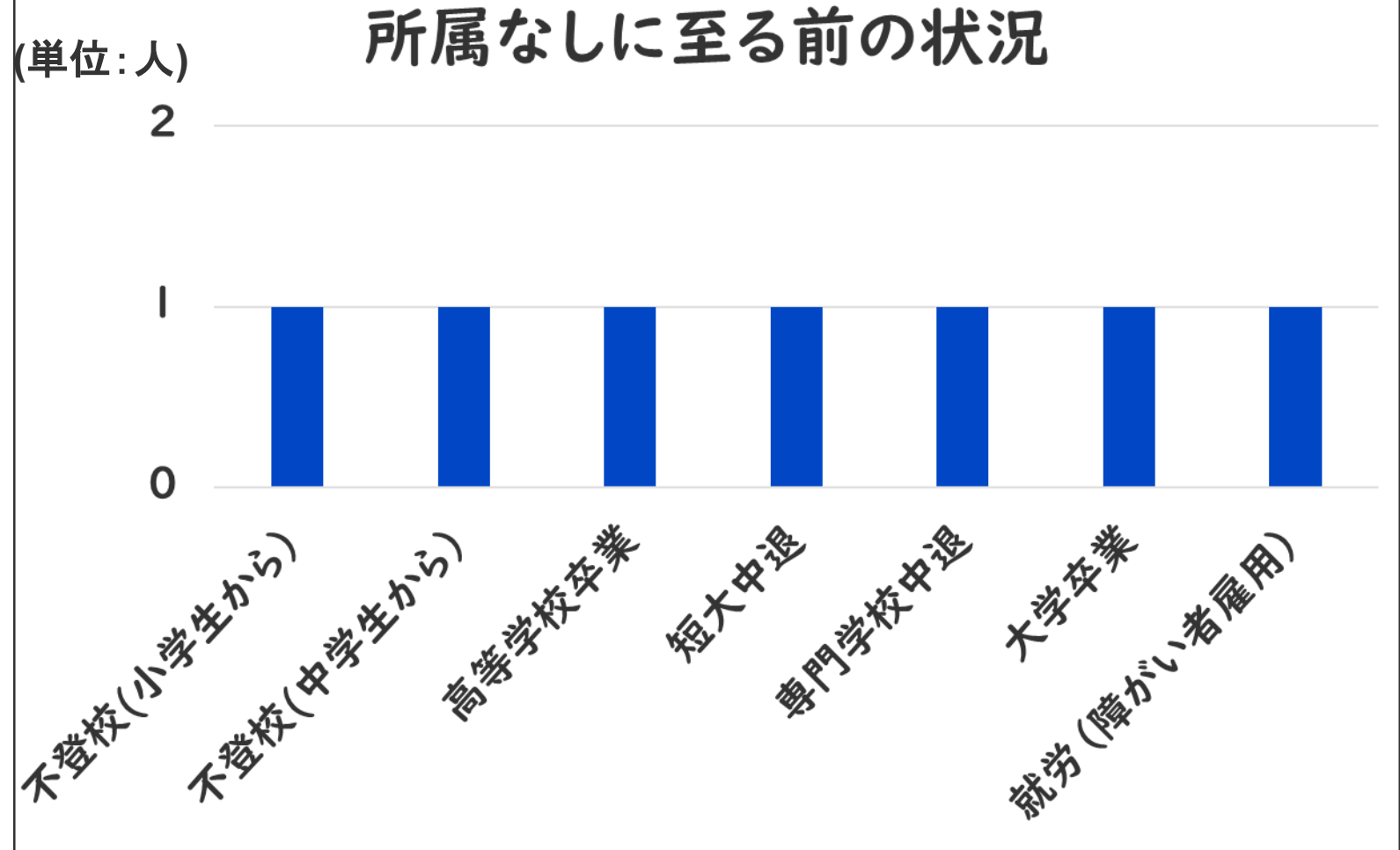
利用者7名の当センター相談開始時の状況③

相談開始時の所属

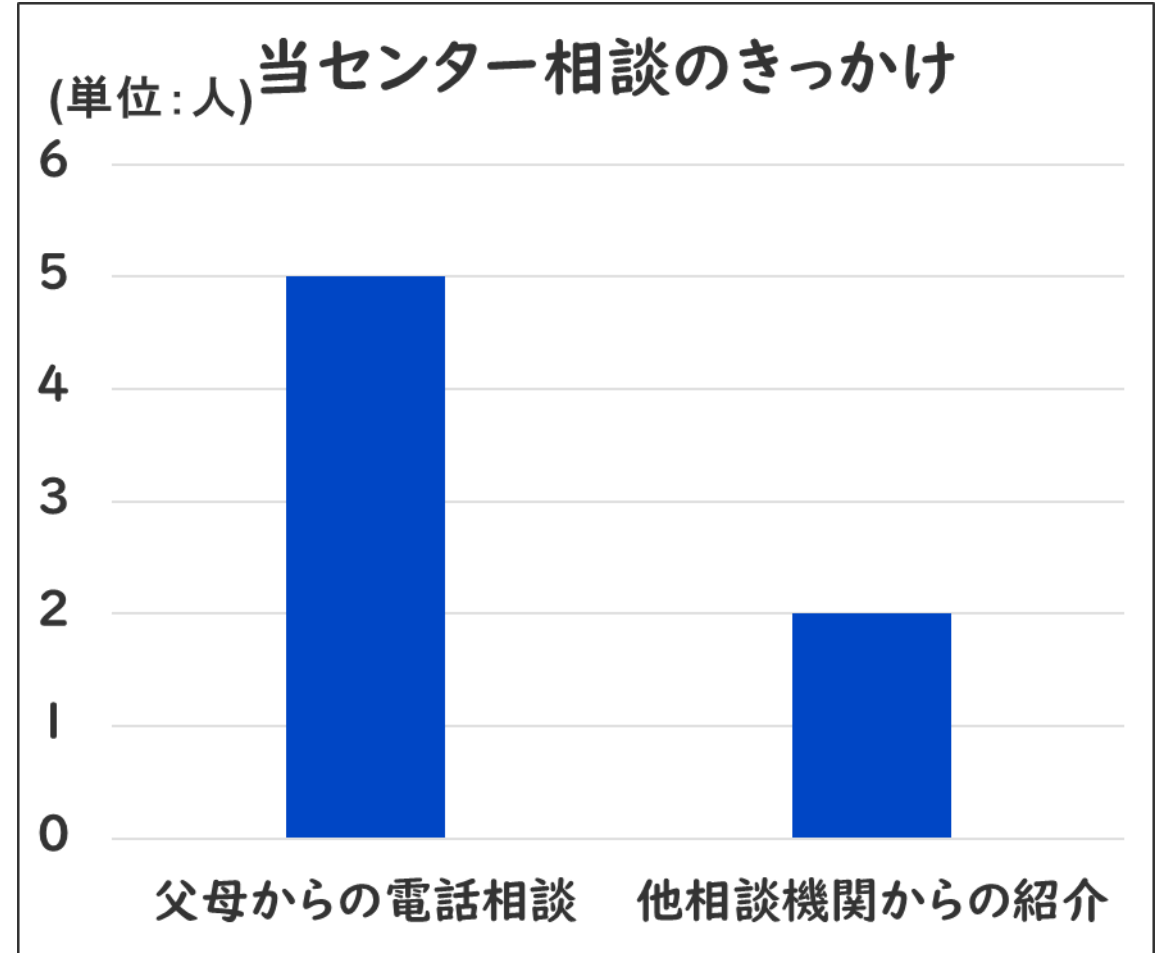
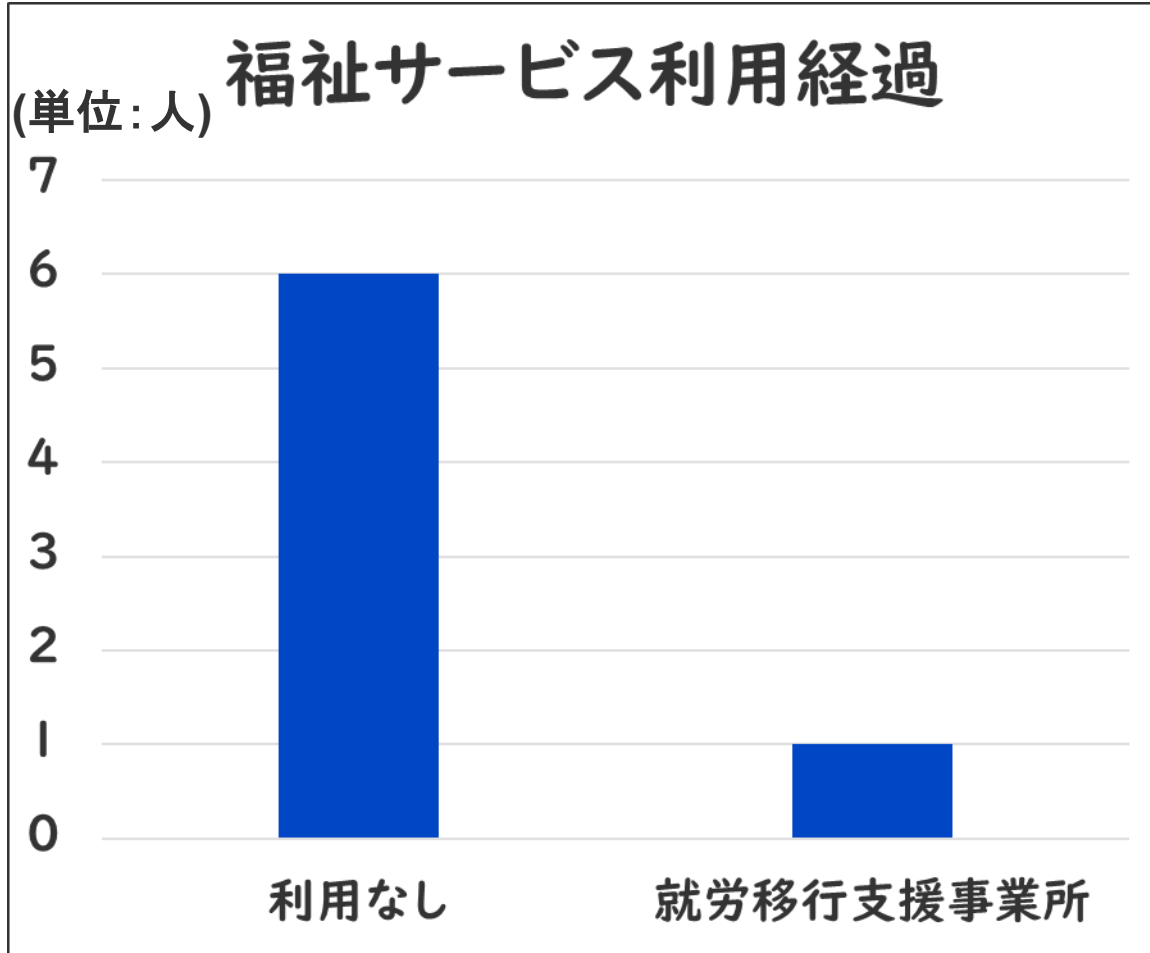
7名全員
『所属なし』

特別支援教育 在籍経過

- ・特別支援学校(小・中) 1名
- ・支援学級(小) 1名
- ・支援学級(小・中) 1名



利用者7名の当センター相談開始時の状況④



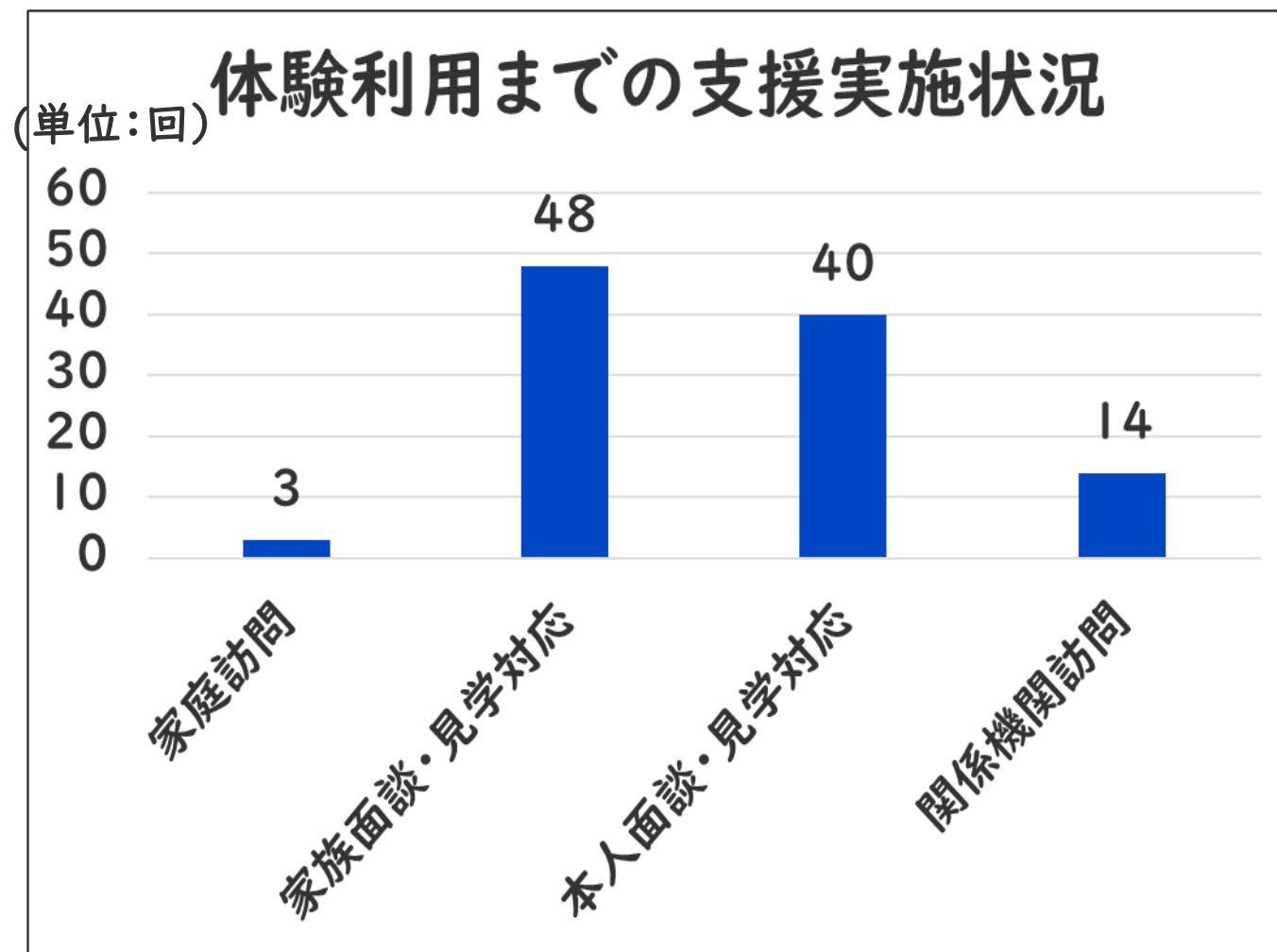
訓練利用に向けた支援の実際

■ 本人や家族の安心が最優先

- ・説明・面談・見学を重ねてやりとり
- ・家庭や関係機関を訪問しながら
本人・家族を理解していく
(生活状況を確認/家族支援)
- ・体験利用も複数回実施

■ 情報処理や変化の難しさへ配慮

- ・説明の量やタイミングを工夫する
- ・本人の安全安心を基盤に広げる
(興味関心のある活動/支援者の広がり)

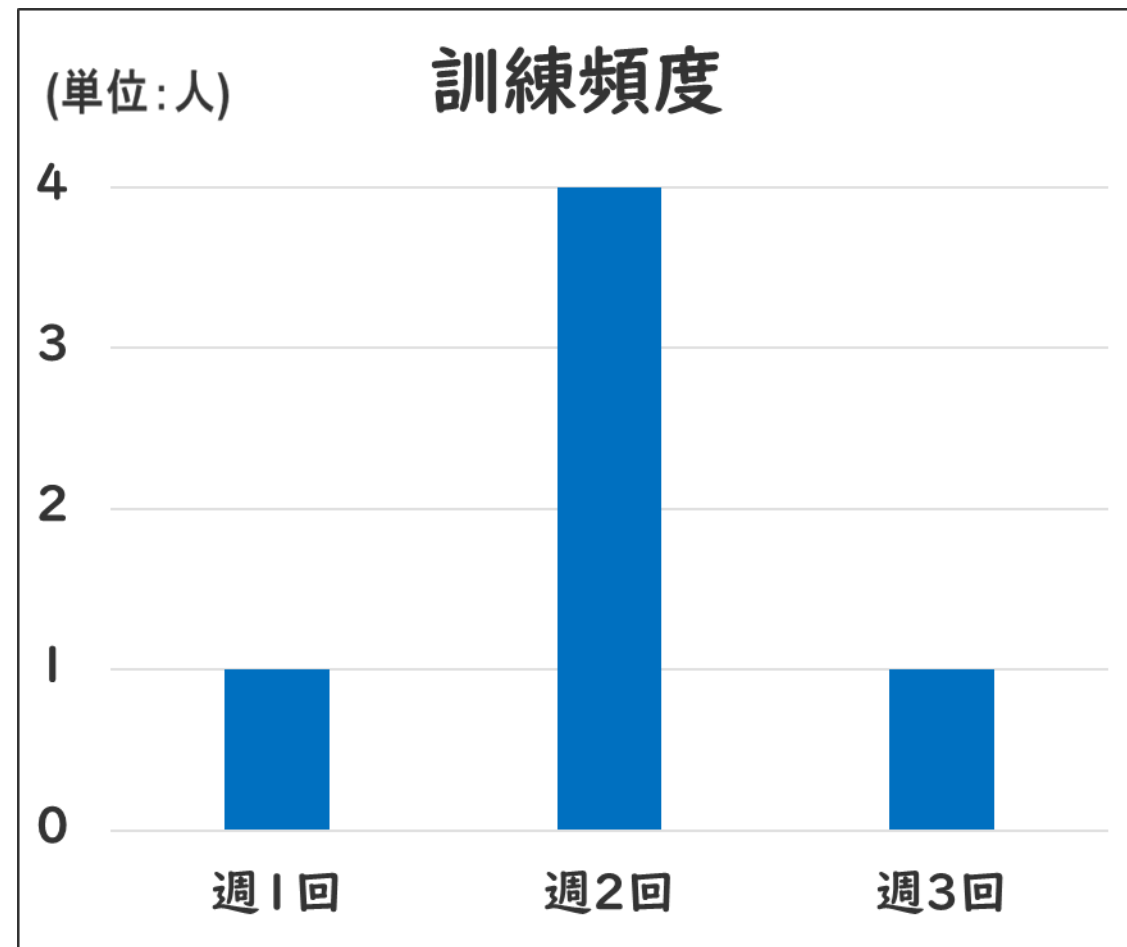


※開所からの利用者7名への対応累計(計105回)

訓練実施の状況

■訓練実施状況

- ・頻度
週1日利用→週2日→週3日へ
無理のないスタート設定から徐々に。
- ・時間
時間利用→1時間半→2時間へ
無理のないスタート設定から徐々に。
- ・変化
本人からの要望で利用日や利用時間増へ
(7名中6名が頻度や時間が増加)
- ・本人と話し合い、訓練頻度を決めていく

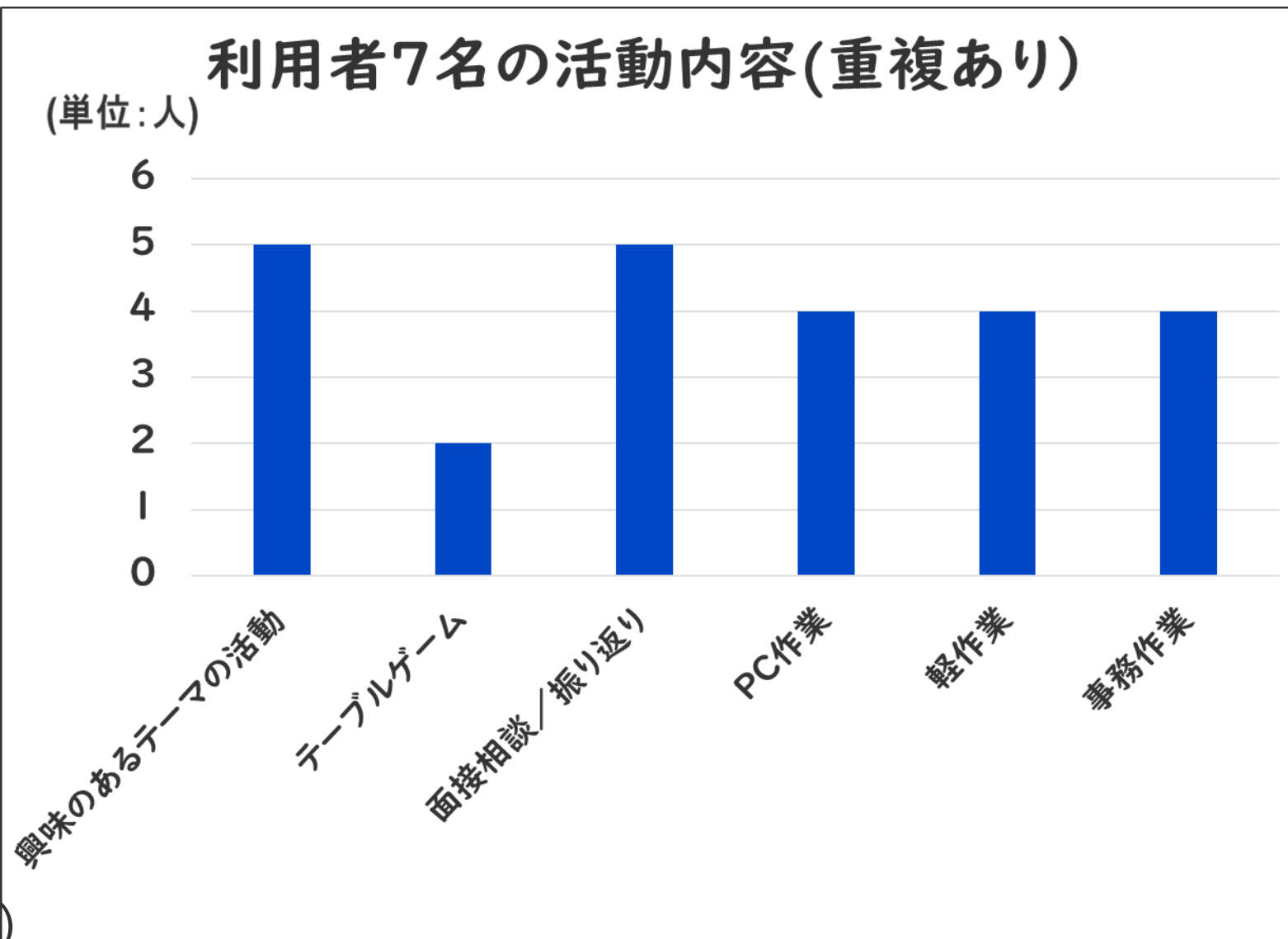


※令和8年1月末 在籍者6名の状況

訓練の具体的な活動内容

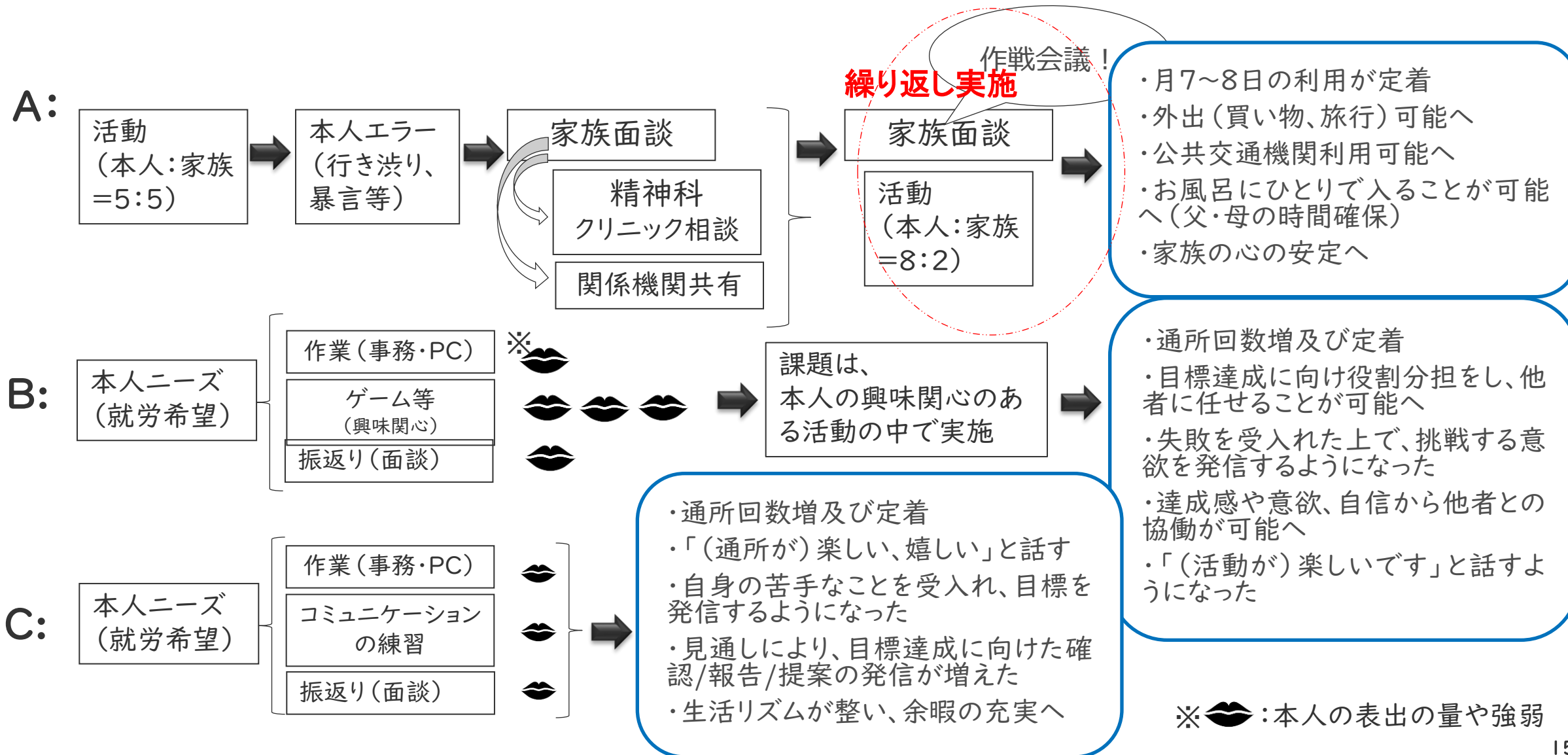
■活動内容の実際

- ・利用者が、自信を持って話せる物事について、支援者に情報発信し、共有をする
- ・日常のちょっとした気がかりを言葉にして支援者に伝える
- ・軽作業をしながら、支援者とやりとり（会話）をする
- ・コミュニケーションゲームを通して支援者とやりとり（会話）をする
- ・就労に向けた作業経験（事務/PC）をする



各利用者の訓練経過

■ 家族面談を核に本人の変化へ / 本人ニーズを軸に自己理解・変化へ



訓練終了後の進路

【訓練終了者1名】

- ・現在は所属なし。就労B型事業所利用の意向あり。
(家族・本人と就労B型事業所の支援者とをつなぐよう、関係機関とともに支援中)

【現在 訓練中6名】

- ・就労継続支援事業の利用を希望し、就労選択支援事業 利用中:1名
- ・何らかの形で働きたい:3名(半年~1年後の障がい者雇用就労支援セミナー参加が目標)
- ・発達障がいの理解がある場所や人と過ごすことを希望:1名 ・未定:1名

○就労を目指す利用者

できることから、無理のない形で段階的に課題に取り組み、経験値を広げるよう、支援。

○生活の質の向上を目指す利用者

作業活動や空間の共有、興味・関心の共有など、本人のペースに応じて他者との関わりや活動の共有をスモールステップで進めるよう、支援。

利用者の状態像を通して感じる 発達障がい児者支援の課題

■訓練開始時の状況から

- ・診断や支援の利用に至っても、集団生活での困難さを経て、所属なしになる状況あり
- ・所属がない状況と、相談や福祉サービス利用につながりにくい状況が重なり、特性上の困難さから課題が複雑化していく 家族に情報が届かない状況がある
- ・家族以外の人と「対話」したいと思っているが、自分の状況や希望を伝えることが困難
- ・家族も本人もこれ以上傷つきたくないと思っているが、これまでの経験から諦めもある
- ・特性や家庭状況、想いを把握し、本人・家族の『安心』を整えていける支援者が必要

■訓練を通して、本人・家族の状況から見えること

- ・安心安全な場所、人の存在（家族の役割/支援者の役割）をどのように整えるか
- ・支援やサービス利用の中での「対話」を積み重ね、自己肯定感にどうつなげるか
- ・社会的所属の中で、必要とされる経験をどう作り出すか

ゆうゆうセンター 自立訓練部門の成果と課題

■成果

- ・本人の障がい特性（情報処理の困難さ、変化の弱さ、コミュニケーションの困難さ等）に配慮したアプローチやプログラムは、本人・家族の前向きな行動につながっている。
- ・安心・安全な環境の確保は、少しずつだが、本人・家族のパフォーマンスを上げている。（通所頻度増加、自発的な行動の増加、余暇の充実等）
- ・小さな気がかりを言語化して伝えた結果、解決に向かう経験は、自発的なコミュニケーションを増やし、他者との活動の幅を広げている。
- ・相談を通して家族の心理的負担が軽減され、家庭のサポート力向上につながっている。

■課題

- ①相談から訓練開始までの、より柔軟で効率的な支援のつなぎ
利用者増への広報も要検討
- ②利用満了後の適切な日中活動先の確保に向けた関係機関との連携と共同支援
- ③日中活動先の安定した利用に繋げるための継続的なフォローアップ体制の整備